

### 3. 今年度の成果と今後の課題



### 3. 今年度の成果と今後の課題

普天間飛行場の跡地利用に関する検討については、平成24年度の「全体計画の中間取りまとめ」以降、統合計画で示された最善の見込みである返還時期（2022年度又はその後）を見据えて検討を進めてきた。その結果、令和4年度には「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」を策定している。

現在は、次期沖縄県振興計画への反映を目指し、令和9年度に「全体計画の取りまとめ」を策定する予定である。しかしながら、返還時期が依然として明確でないことから、検討は構想段階にとどまり、具体的な事業計画の策定には至っていない。

本業務では、関係地権者等の意向醸成や活動の支援・推進を行っているものの、世代交代や相続等により地権者数が増加しているほか、返還時期が不透明な状況が続いていることから、各会における参加者の減少など、活動の停滞が見られる。

次年度は、普天間飛行場の返還が合意された日米特別行動委員会（SACO）最終報告から30年の節目に当たる。この機会にこれまでの取組を振り返るとともに、今後10年、さらにはその先を見据えた活動の方向性を検討する必要がある。一過性にとどまらない継続的な情報発信や組織づくり、将来を担う若者の育成など、関係地権者等の意向醸成を継続的かつ効果的に図るため、今後推進すべき取組について改めて整理する必要がある。

本調査における成果と今後の課題を以下に再整理する。

項目（令和7年度調査）	本調査における成果	今後の課題
若手の会定例会活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●組織の再構築の進展と定例会の継続               <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手の会は再構築に向け、組織のあり方（会則づくり）の検討を進めると同時に、自主会を開き主体的な活動を再開した。本調査では再構築案検討の支援を行いながら、定例会において跡地利用に係る検討や情報発信及び意向醸成の取組に関する情報提供を行い、継続的に意見交換の場を設けることができた。</li> </ul> </li> <li>●効果的な意見収集               <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会において、勉強会をはじめとする各取組の実施内容及び結果報告をそれぞれ行うことで、開催にあたっての留意事項や、運営に関する意見など、今後の地権者及び市民に向けた取組みに有効な意見を得ることができた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若手の会の主体的な活動と連携した取組の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・県市共同で令和9年度の「全体計画の取りまとめ」に向けて跡地利用の検討を進める中、跡地利用に関する情報提供や意見交換などを継続して実施していく必要がある。</li> </ul> </li> </ul>
地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発送	<ul style="list-style-type: none"> <li>●跡地利用等に関する情報発信               <ul style="list-style-type: none"> <li>・全地権者に対して、若手の会の取組みや跡地利用に関する合意形成活動の情報を発信する事ができた。</li> <li>・普天間飛行場跡地利用推進会議の開催報告も発信することができた。</li> <li>・今年度は「勉強会」の開催時期も考慮し、参加者の増加に繋げる効果的な発送時期として11月に発送を行った。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●見やすさ及び分かりやすさの工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・誌面の見やすさ、内容については更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるよう努める必要がある。</li> <li>・取組みのアンケート結果やQ&amp;Aなど、地権者に興味を持ってもらえる情報を効果的に伝える必要がある。</li> </ul> </li> </ul>
勉強会の企画・開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●跡地利用について知り・考えるきっかけづくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のすそ野を広げるため、開催方法として、身近な公民館等の施設で時間と場所を変え、同様の内容で開催することで、比較的多くの方に参加いただくことができた。</li> <li>・地権者の家族や相続などで初めて参加する方にも跡地利用の取組を伝えることができた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●勉強会の内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げるテーマについては、返還の見通しが立っていない中でも興味関心が沸くような新たな動きを取り入れるなど、工夫する必要がある。</li> <li>・初めて参加する方も分かるように、まちづくりに関する専門用語の説明を設けるなどの工夫が必要。</li> </ul> </li> <li>●勉強会や地権者に向けた取組の進め方               <ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会の場で質問することに抵抗を感じる参加者に対して、個別相談を受け付ける時間や場を設けるなど、工夫が必要である。</li> <li>・より有意義な会とするため、参加者が受け身で説明を聞く時間を減らし、能動的に参加できるような取組みを検討する必要がある。</li> </ul> </li> </ul>
(仮称)原案検討委員会に関する取組みの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「普天間飛行場の跡地を考える若手の会再構築案検討会議」の開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度から再構築に向けての検討を進めてきた中、今年度、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会再構築案検討会議」を設置し、計3回の会議を開催した。</li> <li>・地主会、若手の会双方から選出した委員と若手の会の組織のあり方に関する共通認識を確認しつつ、会則（案）の第1条から第6条（会の名称、事務局、目的、活動、会員、会員の定数）について議論した。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地権者組織再構築の実現に向けて               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地権者等の意向醸成の核となる若手の会が今後継続して活動できるよう、会則づくりを通して関係者間の議論を深めることで、組織のあり方に関する共通認識を図っていく必要がある。</li> </ul> </li> </ul>

普天間飛行場の跡地内の地権者への取組み

項目（令和7年度調査）	本調査における成果	今後の課題
<p>普天間飛行場跡地内の地権者及び跡地周辺の市民への取組み</p> <p>地権者・市民への合意形成・情報発信に関する取組みの企画・開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学生による企画提案の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄国際大学と連携し、大学2年生の3クラスを対象とした演習授業をとおして、まちづくりを考えるための進め方や方向性を示しながら、発表を実施することができた。</li> </ul> </li> <li>●まちづくりについて継続して考える機会の創出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月から約2か月間の演習授業をとおして、普天間飛行場の跡地利用と周辺市街地におけるまちづくりについて、大学生が企画提案を行う機会を設けることができ、まちづくりへの関心や理解が高まった。また、大学生がまちづくりについて考える講座を継続して開催することができ、人材育成に繋がった。</li> <li>・大学生による市民、地権者、若手の会等に向けた発表会を通して、まちづくりへの興味・関心が高まった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●沖縄国際大学とのコラボについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、演習授業実施の際にはコンサルタントが各回に出席してグループの進捗確認や取組みに関する方向性を示すなど、必要に応じたサポートが望ましい。</li> <li>・演習授業においては、学生が能動的にまちづくりを考えられるような講義内容の設定、企画作成に加え発表に向けた準備を十分に行うことが望ましい。</li> </ul> </li> <li>●企画内容の実現に向けた検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画提案発表会における最優秀グループの選定は、学生のまちづくりに関する学習意欲の向上に繋がった。さらに、まちづくりの関心を高めるため、企画した内容の実現に向けて市と大学が連携し、支援の実現に向けた検討を行うことが望ましい。</li> </ul> </li> <li>●市民や地権者に向けた情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの市民や地権者に向けた情報発信を行うため、まちづくり講座に市民や地権者参加型で一緒にまちづくりを考える機会を創出するなど、情報発信の方法や内容については更なる工夫が必要である。</li> </ul> </li> </ul>
<p>先進地視察会及び受入れ先勉強会等の企画・開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大規模公園に導入する機能、民間活力活用の可能性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平時は交流やにぎわい拠点となり、有事は広域避難場所へ機能転換、民間活力を活用した質の高い整備や費用負担等に関する考え方について学ぶことができた。</li> </ul> </li> <li>●新技術の有効性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・脱炭素社会の実現に向けた環境負荷の低いエネルギー利用の考え方、自動運転やパーソナルモビリティ等の次世代モビリティの有効性について体験・学ぶことができた。</li> </ul> </li> <li>●拠点整備のあり方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点整備にあたっての合意形成の手法や、単なる交流施設ではなく、地域住民の利便性向上や憩いなど、持続可能な交流施設の在り方について学ぶことができた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民等への意向醸成のあり方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・普天間飛行場返還後のまちづくりについて、地権者のみならず、市民も巻き込んだ検討が必要と考える。本視察で習得した知識をもとに、市民とともにまちづくりにおける課題の共有や解決策のアイデア出しなど、市民がまちづくりに関わる場を今後設けていく必要がある。</li> </ul> </li> </ul>
<p>イベントの企画・開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●来場者の普天間飛行場跡地利用計画に対する興味・関心の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・普天間飛行場の跡地利用計画について、市内外の幅広い来場者に対し、興味・関心を促すことができた。また、親子での来場者も多く、子どもたちが考えた未来の宜野湾市や跡地のまちの展示を通して、親子で宜野湾市や普天間飛行場跡地の将来について考える機会を創出することができた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●更なる情報の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示スペースの規模や動線など、多くの方が落ち着いてパネルを観覧することができるようにする必要があり、今後さらに情報発信の機会を作り、多くの方が観覧できる会場を見つける等、情報発信の充実を図る必要がある。</li> </ul> </li> <li>●アンケート回収率の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多数の来場者がパネルを観覧している一方で、紙アンケートの回答数が少ない結果であった。今後はアンケート回収率向上に向けて、回答を促す積極的な呼びかけや、落ち着いて回答できる環境（回答ブース）の設置などの工夫が必要である。</li> </ul> </li> </ul>
<p>情報誌「まち未来だより」の作成・発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●跡地利用のまちづくり意向醸成に向けた取組みに関する情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のまちづくり意向醸成を目的に実施した「まちづくり講座」「パネル展」等について、写真やグラフを多用することで視覚的に分かりやすい情報発信に繋がり、普天間飛行場跡地利用への関心を高める内容となった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民が跡地利用のまちづくりに興味・関心を持つための工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの市民への興味・関心を促すため、紙面の見やすさ、内容については更なる工夫が必要である。</li> </ul> </li> </ul>

項目（令和7年度調査）	本調査における成果	今後の課題
市内各種団体に対する跡地利用計画検討に関する情報発信及び広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活発な意見交換、有用な提案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・みどりの中での活用に必要なものとして、他都市にはない新たな目玉となるような施設が多く出された。その一方で、地下水脈や洞窟、歴史文化資源としての拝所や滑走路といった跡地に固有な資源を保存・活用する意見も出された。</li> <li>・活動拠点が跡地の外にある団体としての視点から、跡地利用を通じて跡地の外の街を改良する可能性が示された。これは跡地と既存市街地（跡地の外）との連携による市全体のまちづくりとなり得る。</li> </ul> </li> <li>●跡地利用にかかる取り組みの周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みを知ってもらう機会となった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テーマ設定について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みどり（歴史・緑・地形・水）の中のまちづくり」というテーマに対して、参加者に新しいまちへの夢を描いてもらうことができたが、一方でテーマが広すぎる、実感できないとの声もあった。</li> <li>・通り会団体には、連携について問いかけたが、自分事になりにくかった面もあった。</li> </ul> </li> <li>●参加呼びかけについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体あたり複数名での参加を呼び掛けたが、対象は代表者だけと受け止め団体一人のみ参加したところもあった。会の趣旨も伝わりにくいため、工夫が必要である。</li> </ul> </li> <li>●意向醸成について <ul style="list-style-type: none"> <li>・跡地利用計画策定の取組みを進めていることについて、知らなかったと答えた参加者も少なくなかった。引き続き、未だ知らない層を対象に拾いながら意向醸成を図っていくことが求められる。</li> </ul> </li> </ul>
市内小学校において児童へ向けた出前講座の企画・開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●普天間飛行場跡地に関する興味・関心を高める取組みの効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3年生および6年生の児童に対し出前講座を開催し、昨年度に引き続き、宜野湾市の歴史や文化資源、および普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた取組内容をまとめたPVを活用し、学ぶ機会を設けることで、跡地利用に関する周知と理解を深め、興味・関心を高めることができた。</li> <li>・講座体験が「その場限り」でなく「その後の展開」として、友達や家族と共有することへの意欲につながったことで、周知先が広がり、より多くの市民への興味・関心の喚起が期待される。</li> <li>・普天間飛行場跡地に関する知識を得たことやグループワークのプロセスが、将来のまちづくりへの想像力を豊かにするきっかけとなった。</li> <li>・未来のまちづくりの中心的役割を担うと考えられる市内の児童・生徒が「各自の将来の夢と宜野湾市のみらいのまち」を視点に、普天間飛行場について、より「自分事」として認識し、共に考える機会となった。</li> </ul> </li> <li>●学校とのつながりの形成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側から高い評価を得た。（「生徒たちが自分の住む宜野湾市の将来を考える良い機会となった」「中学生になって成長した視点で自分たちの市について考えられそうで意義がありそうだ」とのご意見）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テーマ等の設定について <ul style="list-style-type: none"> <li>・先先生方から、各講座の目的や関連資料・教材については、各学年の該当科目（社会科等）における学習目標やねらい等と関連付け、ゴール設定を更に明確にすることで、各学年の成長過程（理解度）のなかで、児童がより真剣に考えることができるとのご意見をいただいた。</li> <li>・児童の発達段階や学習状況を踏まえながら、普天間飛行場跡地利用に対する考え方の経緯などを追えれば、より理解・認識が深まり、自分事として将来の宜野湾市の具現化につながるものと考えられる。</li> </ul> </li> <li>●参加呼びかけについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は各学校への周知・調整期間が短く、開催時期等の不都合などがあったため、機会損失を防ぎ、今後も継続的に出前講座を実施していくには、開催学年の関連学習時期も踏まえた実施のタイミング等について考慮する必要がある。</li> </ul> </li> </ul>
出前講座高学年用教材 PV 制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PVの一部修正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の更新を行い、視聴者に違和感のないものとなった。</li> </ul> </li> </ul>	特になし

普天間跡地周辺の市民への取組み

項目（令和7年度調査）	本調査における成果	今後の課題
有識者への意見 聴取	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次年度の取組み及び今後の意向醸成活動にあたっての留意事項の明確化</li> <li>・地権者や市民に向けた取組みの方向性や考え方について意見を伺うことができ、次年度の意向醸成活動や、今後の活動の検討を進めていくにあたり、留意すべき事項が明確となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意見聴取の適切な時期について</li> <li>・今年度は若手の会再構築へ向けた取組の開始時期と合わせて、11月及び12月に第1回のヒアリングを実施し、1月に第2回のヒアリングを実施した。当年業務に関する意見聴取は、地権者及び市民等との調整状況によって時期が変わる可能性があるため、1回目の実施は状況報告以外の事項とするなど、時期が近くなりすぎないように工夫が必要。</li> <li>●継続した議論・意見聴取</li> <li>・有識者については、跡地利用の状況はもちろん、これまでの意向醸成活動の経緯を把握していただいた上で意見をいただくことが望ましい。今後も継続して活動報告及び意見聴取を実施し、方向性、手法等に関する検討を進めていく必要がある。</li> </ul>